

ひろしま公園活性化プランの骨子案について

1 要旨・目的

県立みよし公園、県立びんご運動公園、県立せら県民公園（以下、「県立3公園」という。）について、施設の老朽化や利用者のニーズの変化を踏まえた既存ストックの機能向上を図り、将来にわたって県民から愛され続ける公園を実現することを目的に、公園活性化協議会での議論を踏まえ、ひろしま公園活性化プラン（以下、「プラン」という。）の骨子案を取りまとめた。

2 現状・背景

- 県立3公園内の各施設については、開園からの経過年数（15～30年）に応じて老朽化対策を実施すべき施設が増加する一方で、投資できる予算は限られており、公園修繕方針に基づき計画的な維持管理を推進しているが、今後は、更に戦略的に運営・管理していく必要がある。
- 時間の経過や新型コロナウイルスの影響に伴う環境の変化などにより、公園に対する価値観や利用者ニーズが変化していることから、利用頻度の低い施設や未利用地等の有効活用が求められている。
- このため、公園利用者の利便性の向上を図り、魅力的で持続可能な公園であるために必要な事項について、令和3年6月に設置した公園活性化協議会において議論し、プランの骨子案を取りまとめた。

3 プランの概要

(1) 計画期間

令和4年度から令和12年度

(2) 策定に当たっての考え方

30年後の「あるべき姿」を想定して10年後の「目指す姿」を設定し、「目指す姿」と現状とのギャップから「取組の方向」を整理した。

「目指す姿」の設定にあたっては、定性的な目標として、3公園共通となる3項目と公園毎の特性に応じた2項目を設定し、定量的な目標として利用者数と満足度を設定する。（骨子案の詳細は別紙1、県立3公園の施設概要は別紙2のとおり）

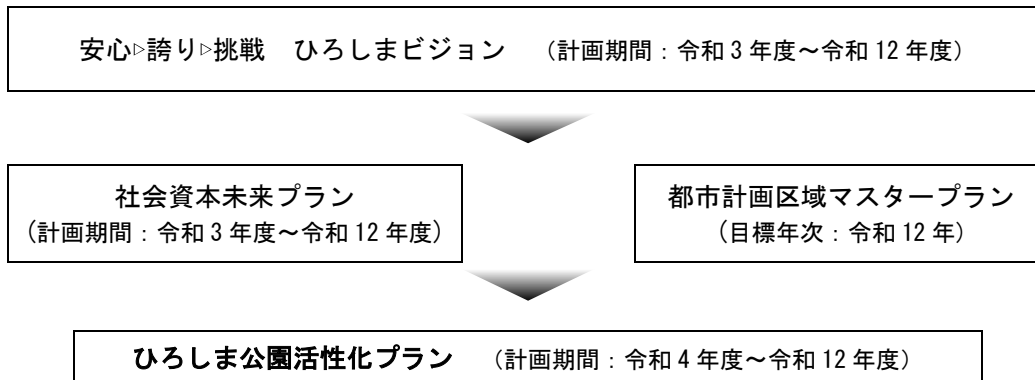
(3) 取組の方向

- ・ 多様化するニーズを踏まえた魅力向上
- ・ 誰もが安心して利用できる多様性への取組
- ・ 地域から愛される公園特性に応じた魅力づくり
- ・ 経営的視点からのコスト適正化・収入増への取組
- ・ 安全・安心を支える取組

(4) 根拠法令

—

(5) 計画の位置づけ



4 スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会	第1回協議会●		←→ 利用者アンケート		第2回協議会●			●第3回協議会		
プラン							骨子案●		●プラン	

※協議会の内容及びアンケート結果については、HPに掲載。

URL：<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/262/toshikouen.html>

重視する社会情勢の変化

●人口減少・高齢化 ●防災・減災 ●新しい価値観 ●SDGs ●カーボンニュートラル ●DX

あるべき姿（30年後） ～将来にわたって愛され続ける公園であるために～

子供からお年寄りまでの誰もが何度でも気兼ねなく訪れたいとする多様性があり、引続き自然と都市の近接性を実感できる場として県民から愛されるとともに、県民の健康・スポーツなどの夢や希望への挑戦を後押しする公園の実現

目指す姿（10年後）

- 多様な人々から高い満足度を得て、誰でも何度でも訪れたいとする、滞在時間の長い施設となっている。
- 気軽に予約・利用ができるなど、利用者へのサービスが行き届いており、満足度が高い施設となっている。
- 民間事業者や地域住民等が公園運営にも参画しており、公園全体の魅力が向上し続けている。

みよし公園

- 備後圏域の誰もが何らかの関わりを持ち、地域に開かれた公園として積極的に利用されている。また、高速道路でのアクセシビリティの良さを活かし、文化活動・企業活動などが盛んに行われている。
- スポーツ及びレクリエーション施設では施設水準が適切に維持され、備後圏域を代表するスポーツ施設として様々な大会等が行われており、屋外ではゆったりと楽しめる、憩える空間が広がっている。

びんご運動公園

- 尾道市を中心とする備後圏域の誰もが何らかの関わりを持ち、地域に開かれた公園として積極的に利用されている。
- スポーツ施設では施設水準が適切に維持され、県内スポーツにおける中核施設として様々な大会開催・イベント等が行われている。また、施設更新時には、利用者ニーズに柔軟に対応するなど、レクリエーション施設も充実し、長時間楽しめる、憩える空間となっている。

せら県民公園

- 原風景が広がる自然観察園では、自然観察や環境学習などが盛んに行われ、地域に欠かせない施設となっている。
- ゆったりと憩える空間が形成されており、周辺観光施設を周遊するファミリー層が、立ち寄ってみたいとする公園となっている。

【目標指標】●利用者数 約182万人（みよし：約70万人、びんご：約77万人、せら：約35万人）
●満足度 約90%（みよし：約90%、びんご：約90%、せら：約80%）※高い満足度を更に向上させる

公園の現状

- 利用者数の現状 約173万人（みよし：約70万人、びんご：約70万人、せら：約33万人）
⇒ 10年後の推計 約160万人（みよし：約63万人、びんご：約70万人、せら：約27万人）※現状から手立てを講じない場合の推計
- 全体的な満足度は高い 86%（みよし：86%、びんご：89%、せら：78%）
- 「施設の充実状況」・「自然の豊かさ」への満足度が高い
- 「飲食・休憩施設」・「バリアフリー化の状況」「地域ならではの取組み」への満足度が低い
- 「遊戯施設」・「飲食施設」へのニーズが高い。
- 公園修繕計画で整理した必要額の予算確保は困難な状況 ●管理運営費の大部分へ県費を投入

利用者アンケートの結果による

公園毎の特性

みよし公園

- 備後圏域のスポーツの中核施設【強み】
- 集客力の高い類似施設と競合【弱み】
- 「施設の充実状況」・「自然の豊かさ」への満足度が高い【強み】
- 備後圏域からの利用が多い【強み】

びんご運動公園

- 県内スポーツの中核施設【強み】
- 高い施設水準【強み】維持コスト【弱み】
- 高速道路からの良好なアクセシビリティ【強み】
- 備後圏（特に尾道）からの利用が多い【強み】

せら県民公園

- 数少ない自然観察園を有し自然活動へのニーズが高い【強み】
- 周辺に観光施設が点在【強み】
- せらワイナリーが隣接【強み】
- 高速道路からの距離【弱み】●広域的な利用傾向【強み】

考慮する視点

●満足度の向上 ●リピート率の向上 ●新規利用者の開拓 ●収入増 ●コスト縮減

現状から手立てを講じない場合と目指す姿とのギャップ

- 飲食・遊戯施設へのニーズが満たされず、バリアフリー対応が不十分となり、全体的な満足度の低下が懸念される。
- 【みよし】「地域ならではの取組」に関わる人が増えない。周辺の類似施設との差別化が図れず、利用者に認知されない懸念。
【びんご】「地域ならではの取組」に関わる人が増えず、地域活動の場としての利用増加が見込めない。
【せら】「自然保護活動・環境学習」の広がりが見込めない。周辺の環境変化に対応できず、他の観光施設への利用者の流出が懸念される。
- 老朽化対策費用の不足で施設の利用制限やサービス低下などが懸念。
- 利用料金による収入が増加しないため、サービス水準の向上が見込めず、満足度の低下が懸念される。

多様なニーズ

多様性

公園特性

コストの適正化
収入増

目指す姿の実現に向けた課題・取組

- ◆ 未活用エリアを活性化し、先駆けて多様化するニーズを満たすため、民間のノウハウや資金を活用するなど、公園全体の魅力を向上させ続ける。
- ◆ 利用者ニーズに対応した多様性のある施設へ更新し、高い満足度を維持し続ける。
- ◆ 【みよし】地域活動・文化活動・企業活動の場として活用しやすい環境を作り、周辺施設との差別化を図る。
【びんご】地域住民が公園で活動しやすい環境を作り、公園への愛着を向上させる。
【せら】地域活動や自然保護活動・環境学習などを行いやすい環境を作り、自然保護活動などに参加する利用者を増加させる。周遊する利用者が立ち寄る施設となるため、せらワイナリー等の観光施設と連携を強化し、認知度向上に向けた取組。
- ◆ 満足度を維持向上させながら、施設水準と料金（県民負担）の適正化を図り、運営コストの縮減や収入増に取り組む。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

多様化するニーズを
踏まえた魅力向上

誰もが安心して利用できる
多様性への取組

地域から愛される
公園特性に応じた魅力づくり

経営的視点からの
コスト適正化・収入増への取組

安全・安心を支える取組

目指す姿の実現に向けた取組の方向

多様化するニーズを 踏まえた魅力向上

- ・民間のノウハウを活かした魅力向上
- ・利用者ニーズを踏まえたサービス提供
- ・オープンスペースの魅力向上
- ・利用者ニーズを踏まえた施設更新
- ・多様な使い方を誘発
- ・DXの推進
- ・継続的なニーズ把握

誰もが安心して利用できる 多様性への取組

- ・気軽に利用できる環境づくり
- ・居心地の良い環境づくり
- ・多様な使い方を誘発【再掲】
- ・SDGsへの配慮
(3_すべての人に健康と福祉を)

地域から愛される 公園特性に応じた魅力づくり

- 【みよし】周辺施設との差別化
- ・地域活動を誘発する環境づくり
- ・SDGsへの配慮
(17_パートナーシップで目標を達成)
- ・広島圏域からも集客できる魅力づくり
- ・文化活動・企業研修を誘導
- ・スポーツを核とした交流

- 【びんご】地域に開かれた公園づくり
- ・地域活動を誘発する環境づくり
- ・SDGsへの配慮
(17_パートナーシップで目標を達成)
- ・スポーツを核とした交流

- 【せら】自然活動等の拡大
周辺施設との連携強化
- ・自然活動を誘導
- ・周辺施設からの利用誘導
- ・SDGsへの配慮
(17_パートナーシップで目標を達成)

経営的視点からの コスト適正化・収入増への取組

- ・新たな管理運営手法の導入
- ・新たな資金調達手法の導入
- ・利用実態に即した施設更新
- ・利用料金の適正化
- ・多様な主体の参画を誘導【再掲】
- ・コスト縮減

安全・安心を支える取組

- ・防災拠点としての機能確保や活用強化・公園施設の適切な維持管理
- ・グリーンインフラの視点による防災機能の強化
- ・カーボンニュートラルへの対応

- ・SDGsへの配慮
(11_住み続けられるまちづくりを)
- ・SDGsへの配慮
(13_気候変動に具体的な対策を)

県立 3 公園の施設概要

(1) みよし公園 (50.9ha)

「備北地域住民の文化及びスポーツと多様なレクリエーション活動の振興」を設置目的として、平成 3 年 10 月に供用を開始した。

主な施設の名称	構造・内容	整備年度	経過年数
カルチャーセンター (体育館)	RC 造 2 階建	H3	30 年
こども広場	7,158m ² , 遊具 11 基	H8	25 年
パークゴルフ場	12,000m ²	H8	25 年
しょうぶ園	7,300m ²	H11	22 年
温水プール	RC 造 2 階建 日本水泳連盟 25m 公認	H12	21 年
自由広場	10,000m ² (内 1,100m ² スケートボード用)	H13	20 年

(2) びんご運動公園 (87.6ha)

「備後地域のスポーツと多様なレクリエーション活動の振興」を設置目的として、平成 5 年 10 月に供用を開始した。

施設名称	構造・内容	整備年度	経過年数
健康スポーツセンター (体育館)	8,547m ² RC 造 2 階建	H5	28 年
陸上競技場	25,644m ² , 2 種公認	H5	28 年
冒険の森 (遊具広場)	26,000m ² 遊具 20 基 ジャイアントスロープ	H5	28 年
多目的広場	32,000m ² 健康遊具 13 基	H7	26 年
テニスコート	18 面	H7	26 年
温水プール	1,773m ² 日本水泳連盟 25m 公認	H8	25 年
オートキャンプ場	3,000m ² (30 サイト)	H11	22 年
しまなみ球場	13,800m ²	H14	19 年

(3) せら県民公園 (供用 約 27ha, 未供用 約 36ha)

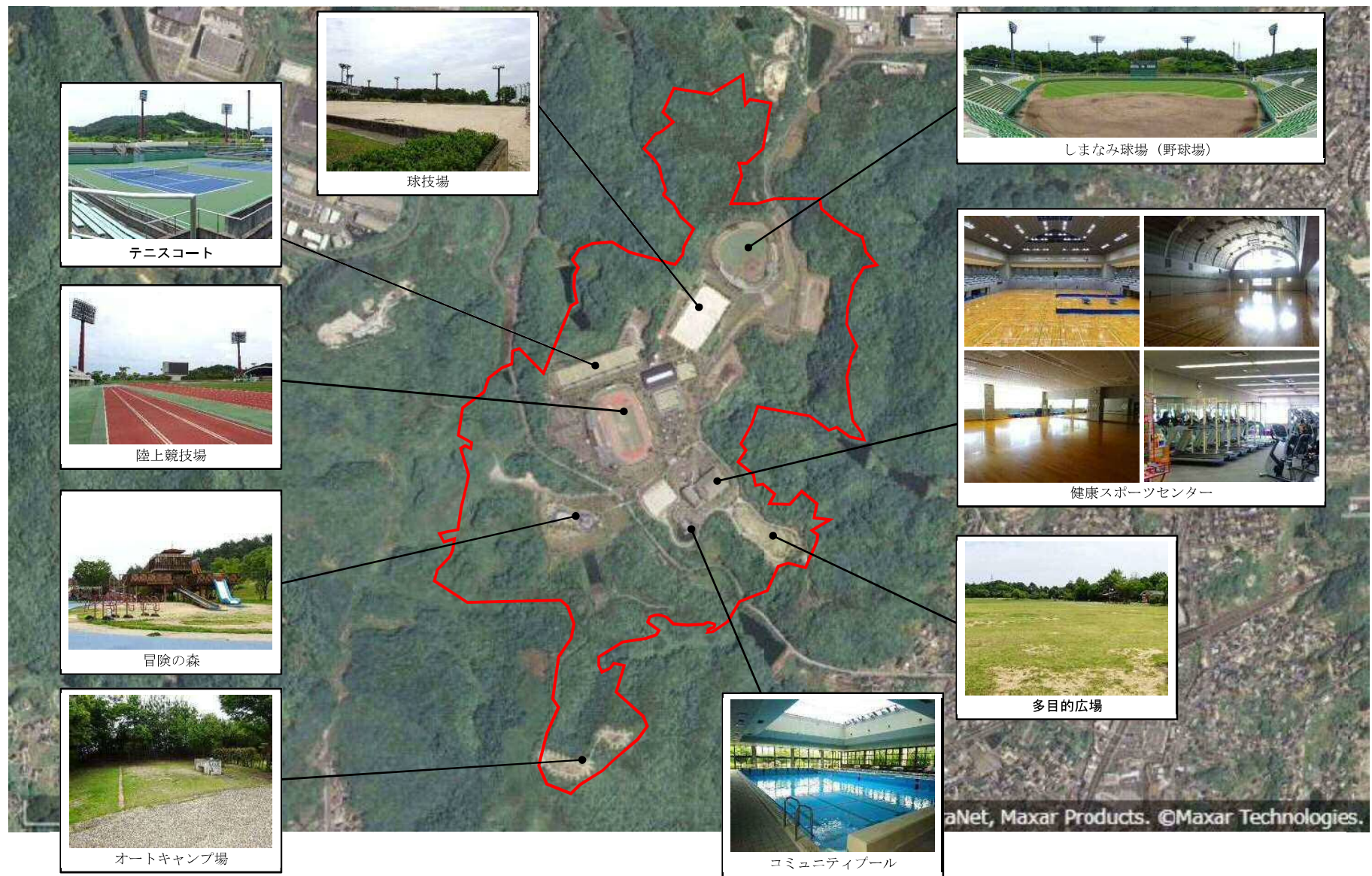
「県民の安らぎ交流拠点の創出, 地域交流や自然との触れ合いを通じて心身を癒し, リフレッシュできる場の創出」を設置目的として, 隣接するせらワイナリーと共に「せら夢公園」という愛称で平成 18 年 4 月に供用を開始した。

施設名称	構造・内容	整備年度	経過年数
ふれあいの広場	約 22ha のんびり草原, レクリエーション広場, ミニチュアガーデン (遊具広場)	H18	15 年
自然観察園	5.2ha	H20	13 年
散策道		H23	10 年

■県立みよし公園の施設配置



■県立びんご運動公園の施設配置



■県立せら県民公園

